

	<p style="text-align: center;">学校だより 5月号 令和5年4月28日 墨田区立第三寺島小学校 校長 関口 亮治 児童数 324名 墨田区東向島6-8-1 電話番号 03-3614-0201</p>	<p>☆心身ともに健康で自主協同の精神に 満ちた児童を育成する</p> <p>教育目標 ○じょうぶな体をつくる子 ○進んで学ぶ子 ○おたがいを大切にする子 ○人のために働ける子</p>
---	--	---

「一粒の米」

校長 関口 亮治

新しい学年、学級になり一月が経ちます。金子みすゞさんの「四月」の詩のように、うれしい気持ちや、新たな目標に向かって意欲をもって過ごした一月だったことでしょう。

さて、「一粒の米」という話があります。努力をすることの大切さが伝わってくるエピソードです。

江戸時代に新井白石という学者がいました。その白石が子供の時のことです。

ある時期、白石が勉強をさぼるようになりました。その時、白石のお父さんは白石を呼んで、こんな話をしました。

「升に米がつまっている。この升から毎日一粒ずつ米を取っていても最初のうちは誰も気が付かないだろう。しかし、半年経ったら誰もが米が減ったことに気付くだろう。一年経てば、もっとそのことに気付く。勉強とはそういうものだ。今さぼっていても、減っていることには気が付かない。しかし、時が経ってからでは、取り返しがつかないのだ。」

それを聞いて、白石は自分がさぼっていたことを深く反省しました。そして、その後、今まで以上に勉強に努めたそうです。

保護者会でお話しした「21世紀出生児縦断調査」。この調査は2001（平成13）年に生まれた人を継続して調べ、それまでに受けた経験や環境要因が、その後の状況や意識にどのように影響を及ぼしているのか分析したものです。その一つとして「体験活動の経験が子供の自尊感情やがまん強さを伸ばす」ことが示されました。「自分に対する自信（自尊感情）」や「がまん強さ」、「意欲」などは、非認知能力と呼ばれています。数値で測りにくい学力として、近年重要視されています。教育経済学者の中室牧子さんも著書の中で、重要な非認知能力として「自制心」と「やり抜く力」を挙げています。

先のエピソードの一つ一つ努力を積み重ねていくことも、粘り強さや継続する力が身に付き、非認知能力が培われることとなります。そのためには、周囲の励ましや支援、環境を整えることが必要です。縦断調査の結果のように子供に豊かな活動を保障していくこと、時には白石のお父さんのように子供の心に落ちるように諭すことも大切です。

第三寺島小学校の子供たちにも、一粒ずつお米を増やす日々を過ごしてほしいと思います。そして、3月には、升から米があふれるような実りある一年になることを期待しています。新年度の始まりに際してもった、うれしい気持ちや意欲を継続し、膨らましていくことができる学校生活となるように、教職員が力を合わせて今後も様々な教育活動に努めてまいります。

参考・引用文献 21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）に関する特別報告 文部科学省
「学力」の経済学 中室牧子 株式会社ディスカヴァー・トゥエンティワン